

水泳ニツポン・ 中期計画2017-2024 (2022年度 進捗報告)



センターポールに日の丸を!



2023年6月

公益財団法人日本水泳連盟

水泳ニッポン・中期計画2017-2024 要旨

ドリームプロジェクト2020

ドリームプロジェクト2020策定
アジア選手権東京大会開催

2012 2016

水泳ニッポン・中期計画2017-2024

中期計画2017-2024策定
パンパシ選手権東京大会開催
東京五輪開催
世界選手権福岡大会開催

2017 2018 2021 2023

水泳ニッポン・新時代構想

公益財団法人日本水泳連盟創立100周年

2024

①「する」「みる」「ささえる」水泳ファミリーの拡大

- ・日本代表の強化推進による水泳人気の拡大
- ・競技者、指導者、審判、ファン、愛好者の拡大

【ポイント1】
「第2期スポーツ基本計画」に基づき策定

③組織基盤の強化

- ・幅広い分野からの有能な人材の積極的な登用
- ・若手を中心とした人材育成

②「泳げない子供・大人」を減らす環境整備

- ・地域内温水プール拠点化構想の推進
- ・安全をより重視した学校体育(水泳授業)の充実

【ポイント2】
「理念」「使命」「行動指針」を明文化

④データベースの再構築

- ・登録、エントリー、課金記録管理の改善
- ・2次利用による次世代収益基盤の確立

センターポールに日の丸を！

競技力向上に努め、センターポールに日の丸を掲げ、人々に勇気と希望を与える。



国民皆泳

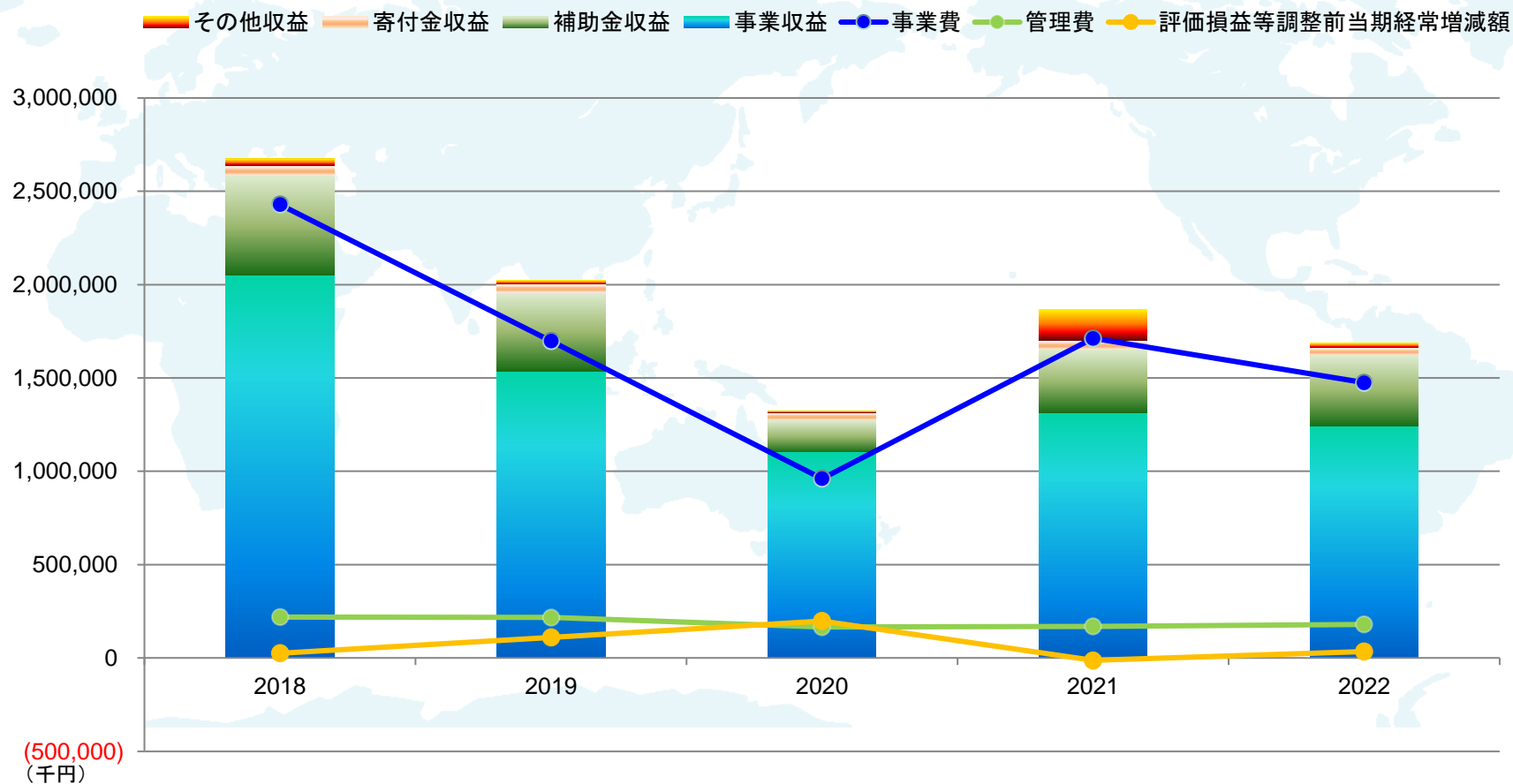
水泳の普及に努め、国民皆泳を実現し、人々の健康保持・増進と、水難事故防止に貢献する。

【ポイント3】 4戦略+8アクションプランで構成

財務状況

2022年度財務実績 (単位:百万円)

■ 事業収益	1,243	■ 補助金収益	381	■ 寄付金収益	38	■ その他収益	27	■ 収入合計	1,689
■ 事業費	1,475	■ 管理費	180	■ 支出合計	1,655	■ 評価損益等調整前当期経常増減額	34		



【1】日本代表強化：①競泳

【戦略2017①】

年度

2022

2024

目標

- ①複数の金メダル獲得(達成)、10個以上のメダル獲得(未達成)
- ②入賞率60%以上(未達成)

- ①金メダルを含む複数メダル獲得
- ②入賞率(対種目数)60%以上
- ③ベストタイム達成率(対人数、リレー第1泳者含む)35%以上

2022年度 主要大会	金	銀	銅	総括
世界選手権	0	2	2	世界選手権では、花車選手・水沼選手が銀メダルを、本多選手・瀬戸選手が銀メダルを獲得。入賞率55.6%
世界選手権25m	2	2	2	
世界ジュニア選手権	7	8	4	世界ジュニア選手権では、国別メダル獲得数で1位。



【1】日本代表強化：②飛込

【戦略2017①】

年度

2022

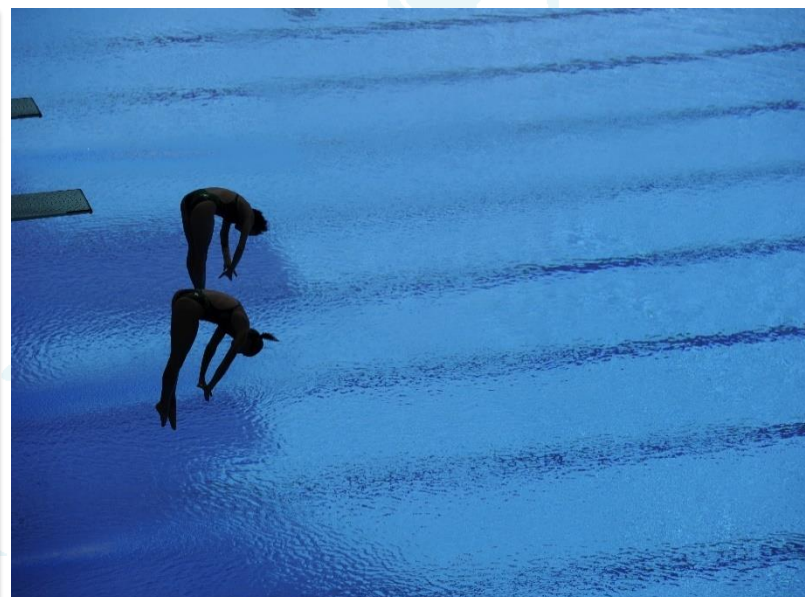
2024

目標

①個人種目6位入賞以内
(一部達成)

①女子3m飛板飛込、男子高飛メダル獲得
②シンクロナイズド入賞及びメダル争い

2022年度 主要大会	金	銀	銅	総括
世界選手権	0	2	0	世界選手権では、玉井選手(男子高飛込)と三上紗也可・金戸凜ペア(女子3mシンクロ飛板飛込)が銀メダル獲得。出場者全員が決勝進出。 世界ジュニア選手権では、入賞3(メダル0)。
世界ジュニア選手権	0	0	0	



【1】日本代表強化：③水球

【戦略2017①】

年度

2022

2024

目標

予選リーグ突破～メダル獲得挑戦
(未達成)

ベスト8進出～メダル獲得

2022年度 主要大会	金	銀	銅	総括
世界選手権	0	0	0	世界選手権では、男子が過去最高順位となる9位。
アジア選手権	1	1	0	アジア選手権では、男子が優勝、女子が2位。
ワールドカップ	0	0	0	ワールドカップでは、男子がディビジョン1に選抜され5位。



【1】日本代表強化：④AS

【戦略2017①】

年度

2022

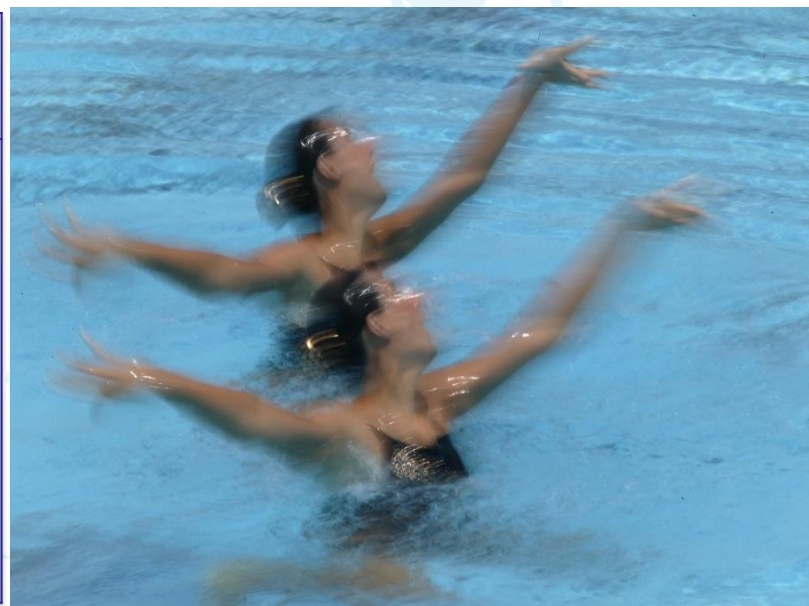
2024

目標

デュエット、チーム 銅メダル獲得
(デュエット未達成、チーム達成)

メダル獲得

2022年度 主要大会	金	銀	銅	総括
世界選手権	2	4	1	世界選手権では、乾選手の金メダルを含む7個のメダルを獲得。
世界ジュニア選手権	8	2	0	次世代強化として、世界ジュニア選手権ではメダル10個、世界ユース選手権ではメダル5個を獲得。
世界ユース選手権	3	2	0	



【1】日本代表強化：⑤OWS

【戦略2017①】

年度

2022

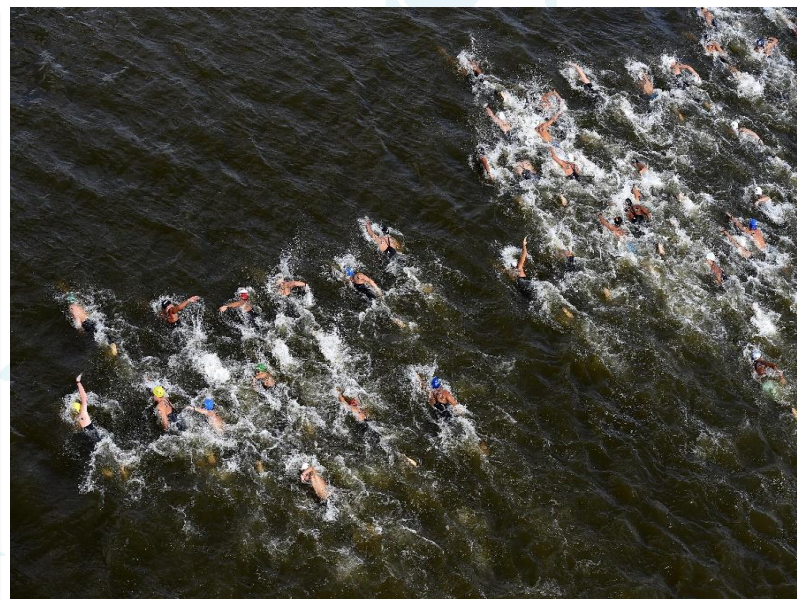
2024

目標

世界選手権10kmにおいて男子10位以内、女子15位以内(未達成)

男女ともに16位以内

2022年度 主要大会	金	銀	銅	総括
世界選手権	0	0	0	世界選手権では、女子5kmと女子25kmで9位。
アジア選手権	3	1	1	アジア選手権では、金メダルを含む5個のメダルを獲得。
世界ジュニア選手権	0	0	0	世界ジュニア選手権では、過去最高順位となる5位。



【2】指導者・審判

【戦略2017①】

【戦略2017②】

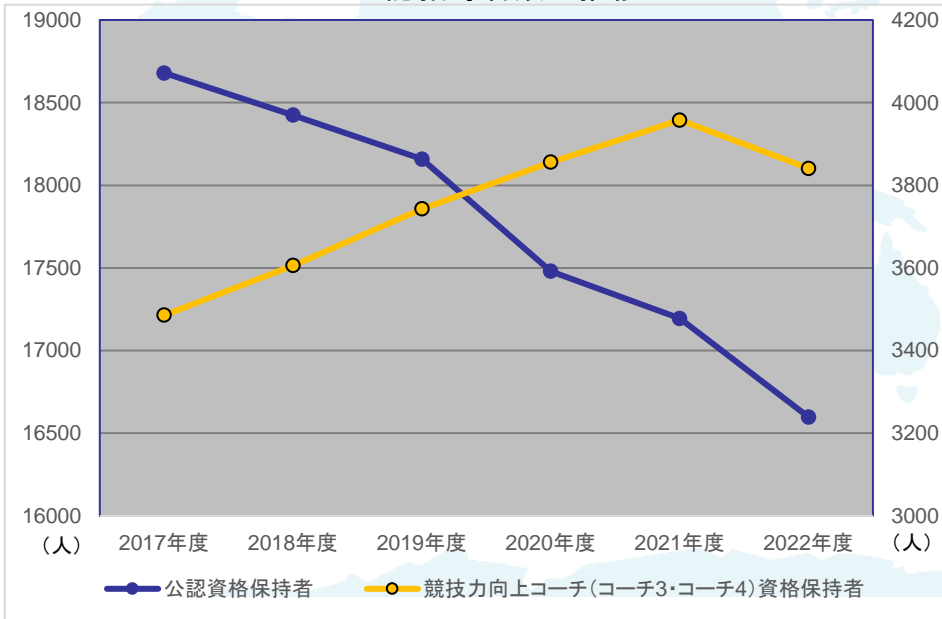
年度

2024

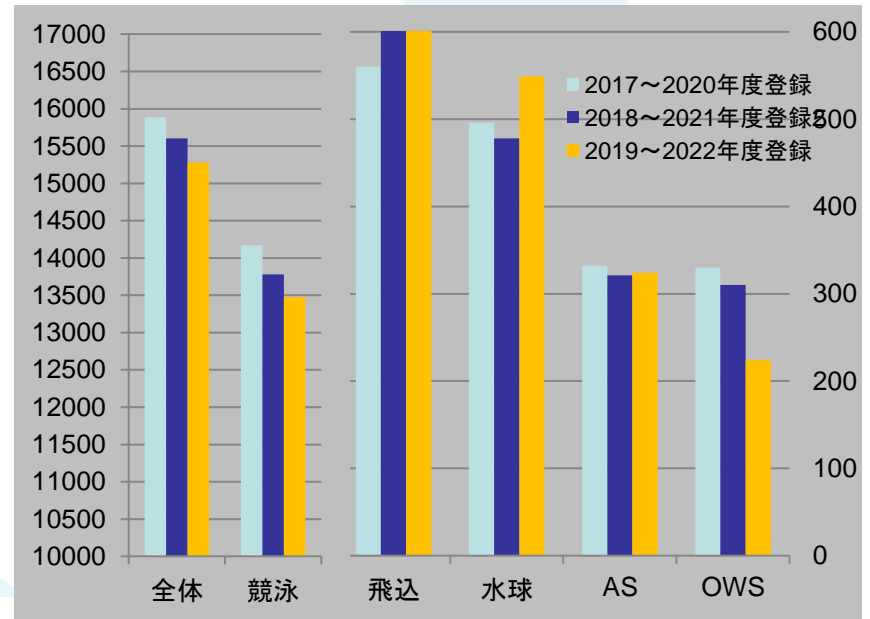
目標

- ①公認指導者：21000人
- ②公認審判員：17000人

■ 公認指導者数の推移



■ 公認審判員数の推移



(単位:人)

【3】競技会・マーケティング

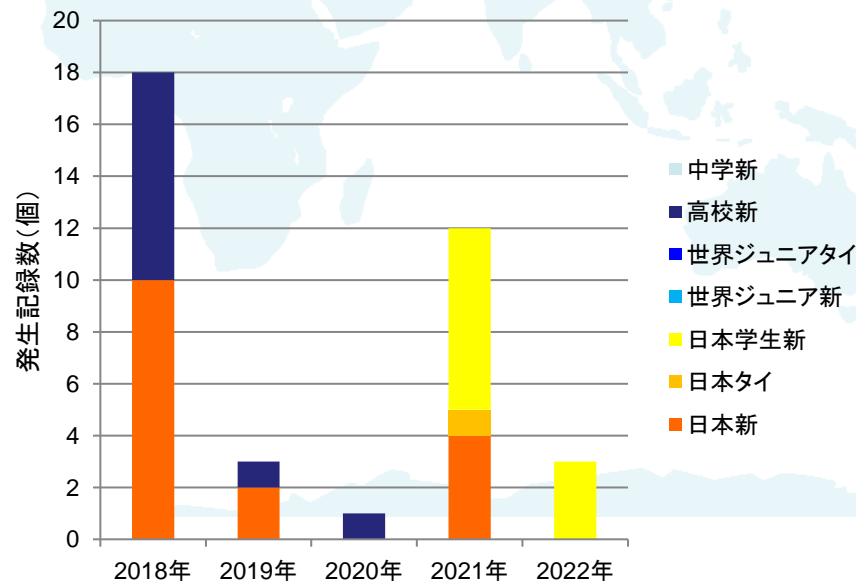
年度

2024

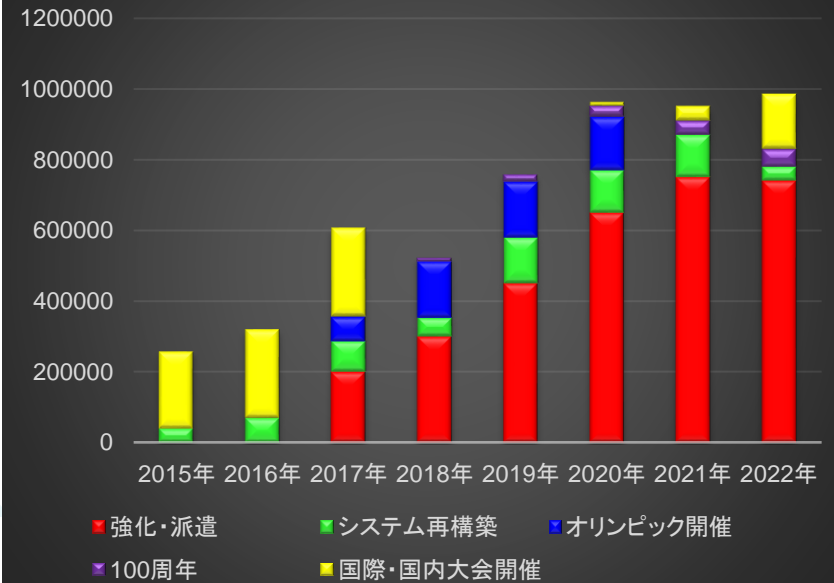
目標

- ① 競技会：国内競技会の充実
- ② マーケティング：事業の強化

競泳日本選手権における発生記録の推移



特定費用準備資金・資産取得資金の準備状況



【4】普及

【戦略2017①】

【戦略2017②】

年度

2024

目標

- ①国民皆泳の実現
- ②水泳ファミリーの拡大

2022年度の 主な実施事業	総括
水泳の日2022・高知	高知市のくろしおアリーナにてコロナ禍ではあったが感染対策を徹底し開催。1,571名ものたくさんの方々の来場により盛況のうちに終了
ニチレイチャレンジ 泳力検定	コロナウィルスの影響も徐々に落ち着き、開催団体も増え、増加傾向 受検者数47,984名(前期比+6,285名) 合格者数36,318名(前期比+6,376名)
日本スポーツマスターズ 岩手大会	3年ぶりに38都道府県より参加者547名にて開催。10年連続出場者13名、20回出場者13名の方々の記念表彰を実施



【5】組織基盤

【戦略2017③】

【戦略2017④】

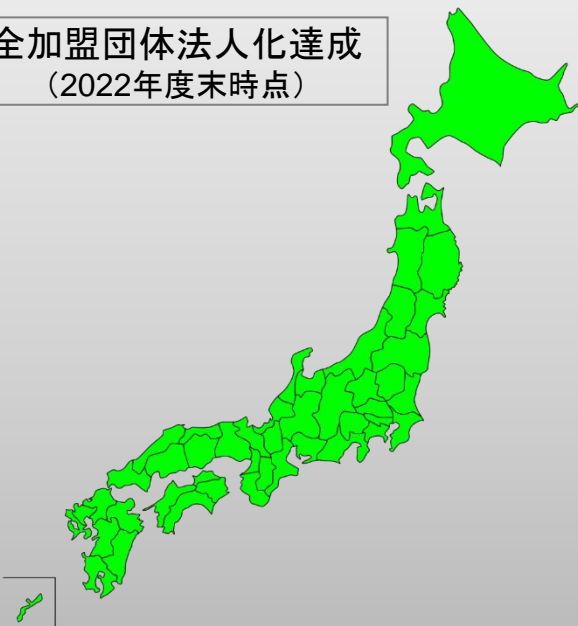
年度

2024

目標

- ①組織基盤の強化(全加盟団体の法人化) (達成)
- ②全加盟団体との理念・使命・行動指針の共有

全加盟団体法人化達成
(2022年度末時点)



スポーツ団体ガバナンスコード<中央競技団体向け>に基づく
定款および規程の変更 * 2023年6月25日より施行

主な変更点

理事	<ul style="list-style-type: none">・理事総数を「16～20名」に縮減。・加盟団体理事＋外部理事＋業務執行理事(常務理事会メンバー)により構成。・女性割合40%以上、外部割合25%を設定。
評議員	<ul style="list-style-type: none">・加盟団体評議員＋外部評議員＋業務執行評議員(専門委員会から選出)により構成。・女性割合20%以上、外部割合4%以上を設定。・就任時の年齢上限70歳未満、再任制限を設定。
その他	<ul style="list-style-type: none">・優秀な人材確保に向けた施策導入(役員報酬の支給可、有給専門職の雇用可)。・独立した役員候補者選考委員会の設置。



センターボールに日の光を!



公益財団法人日本水泳連盟